●安曇地区●
698世帯
男　681人
女　694人
合計　1375人
R3.7.1現在

第75回 ウエストン祭 6/6（日）

昨年に続き、関係者のみで開催されたウエストン祭。

式典では、尾崎喜八氏（日本山岳会信濃支部の第2代支部長・安曇小中学校の校歌の作詞者）の生誕130年を1年前倒しで記念して、同氏の詩の朗読が、フリーアナウンサーで松本市在住の本間香菜子氏により行われました。

▲ウェストンレリーフに献花する参加者

人の〝思い〟ウエストン祭記念山行によせて

安曇地区の伝統行事であるウエストン祭記念山行（主催：安曇地区子ども会育成連合会・安曇公民館）は、昨年の豪雨による登山道の崩落により、例年とは異なるルート（明神～徳本峠の往復）での実施を計画しました。

参加対象を安曇地区内の学校の児童・生徒及び同居する保護者とする等、新型コロナウイルス対策の徹底を図り、参加者を募ったところ、23名の方から、申込みをいただきました。

結果的に、融雪による登山道の崩落により、中止を余儀なくされ、非常に悔しい思いをさせてしまいましたが、振り返ると、たくさんの人の〝思い〟を感じることができました。

「子どもたちが来るなら小屋開けを早めて待ってるよ。」と言ってくれた、徳本峠小屋の主人。

「ルートを変えてでも、実施できる方法を考えよう。」と言ってくれた育成連合会長。

人の〝思い〟がある限り、この伝統行事は続いていくのだと思います。

大野川小中学校グラウンド整備

6月1日（火）大野川小中学校のグラウンドでサワンド建設株式会社が重機を使い、整備をされていました。10年ほど前からボランティアで、大野川校の運動会前に、社員総出で行っているそうです。

サワンド建設（株）の川上社長が「生徒数は減っていくが、学校の大きさは変わらない。PTAや先生方の負担も大きいのではないか。できることはないか。」と感じ、「地域と一緒に、ここにいる意味を最大限に生かしたい。」という気持ちから始まりました。

大野川校は、敷地が広大で、木も多いが、生徒数が少なく、グラウンドの雑草は踏み固められることなく、どんどん生えてくるそうで、まずは、手作業で草取りなどを行った後に重機で作業を行います。

このことについて大野川小中学校の柳澤校長と西原教頭は「学校だけなら追いつかない。本当にありがたい。」「学校に関わってくれてつながりを感じる。」と話されていました。

この他にも同社は、地域の外来種駆除にも力を入れて活動されています。

▲広い敷地を重機で整備

あづみへようこそ⑧

大脇（おおつき）　純・ちなつ（稲核地区）

今年の3月末に、東京から移住して来ました。コロナ禍で外出や学校などかなり制限がある生活から一変、毎日緑に囲まれて生活するのがこんなに心を癒してくれる事に驚き感謝しながらの生活です。子供たちは毎日顔を輝かせながら学校や保育園に通っています。少人数を最大限に生かした教育で、このような時期でも、安全に上高地遠足に行けたり、運動会が出来たり、保育園では乗鞍へのわらび採りや、バス散歩にも連れて行っていただけます。凄く恵まれた環境で、のびのび生活が出来ており、安曇に来て本当に良かったです。

引っ越して来てから既に近所の様々な方に親切にしていただき、本当にありがたく思っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。

環境美化運動について

4月から5月にかけて各町会ごとに行われました。

トンネルが繋がります

▲国道158号線の大白川付近の改良工事で建設されているトンネルの工事が進み、今まで頭の中で繋がっているだけでしたが、現実に繋がる形が見えるようになりました。

安曇小中学校

元気な安曇っこ

安曇ギャラリー 小学校４年生「立ち上がれ！ねん土」

～土粘土を使い、色々な立ち上がらせ方を考えて、作品をつくりました～

「空の世界」

家や人を線でつんで作りました。倒れないように手を顔にくっつける工夫をしました。

「モンスターたち」

モンスターを作った理由は、１回作品がこわれていて、モンスターができたからです。見てほしいのはキノコです。

「家族の楽しいくらし」

赤ちゃんのベットのはしごなどを工夫したので、見てほしい。他にも畑を本物のように作ったつもりなので、一つずつ見てほしいです。

「おもしろい世界」

ぼくが一番大変だと思ったのが、人です。どうしてかと言うと、人をつくるのが苦手だからです。工夫したところは、台です。人を乗せている台の形を立てやすくしました。

大野川中

わらびとり

大野川中学校　一年　八懸　空乃

六月一日に勤労体験としてＭｔ・乗鞍スキー場にわらびを採りに行きました。

今年は目標収穫量を１００キログラムに決め、その目標を達成できるように地元の方や自然保護レンジャーの方々と一緒にがんばりました。

私たちの班は鳥尾根というコースでわらびを採りました。地元の方に鳥尾根コースのリフト下に連れて行ってもらいました。そこにはわらびがたくさんはえているところがあり、その一帯だけで３キログラムくらい採れました。まるで「わらび天国」のようだと思いました。とても嬉しかったです。わらびを見つけながら坂を登っていきましたが、ふとふり返るとそこから見える景色がすごくきれいでした。

その後コースを出て休憩をし、学校に帰りました。学校でお昼を食べたあと仕分け作業を開始しました。この仕分け作業が毎年大変なのですが、今年も全員の頑張りのおかげですごい量だったので、その量を仕分けるのが本当に大変でした。今年の採れた合計キログラム数は１２１キログラムになりました。目標が達成でき、しかもおいしそうなとてもいいわらびが採れていて良かったなと思いました。

大変な作業でしたが、今年は乗鞍の図書委員のみなさんも手伝って下さったおかげでなんとかやっとのことで仕分け作業を終えることができました。その後わらびは松本市内の料亭「しづか」さんに買い取って頂きました。買い取って頂いたお金は生徒会費や、乗鞍の図書館の本を買うお金にしていく予定です。

このわらびとりを通じて、今までよりももっと地元の人と仲が良くなることができ、たくさんの自然に触れることができました。さらに、お金を稼ぐことの大変さが良くわかりました。この行事は、すごく意味のある行事なので、これからも続けて欲しいです。